

## Y23a 総合科学としての天文学を大学でどう教えるか？ - 国際ガイドラインの作成に向けて-

縣 秀彦、Lina Canas (IAU OAO/国立天文台)、鴈野重之 (九産大)、Pedro Russo (Leiden University)

日本学術会議では、平成20年に文部科学省高等教育局からの依頼を受け、大学教育の分野別質保証の在り方について検討がなされ分野毎に指針が発表されている。この中で天文学は物理の一分野と位置付けられているが、実際には大学の物理学部に含まれ物理学の学士としての質保証が必要とされる「天文学科」が設置されている大学は少数にすぎない。その一方、全国100以上の大学で行われている天文学に関する教育についてはその扱いが定まっていない。そこで、本検討に参加した日本天文学会分野別参照基準作成ワーキンググループは、独自の視点で、「天文学を学ぶすべての学生が身に付けることを目指すべき基本的な天文学の素養等について」も検討を行った。これを受けて、本研究では全国の大学で実施されている天文学教育の実態を明らかにするとともに、「総合科学としての天文学」という新しい視点に基づいて、天文学分野における質保証の具体的な課題を抽出する。

一方、グローバル化の下、大学学部における国際的なシラバス・カリキュラムのガイドライン構築が求められている。本研究では、さらに諸外国の大学における天文学カリキュラムを比較検討するとともに、日本の大学院へ進学を希望する外国人学生の学習内容も調査し、多角的に新しい視点「総合科学としての天文学」に即した国際的カリキュラムのガイドライン提案を目指す。この取り組みは他の学術分野の国際ガイドライン作成のトリガーとなるとともに、今後の国際的な高等教育のあり方に対して多方面への波及効果が見込まれる。